

第16回 さんさん歩 「さかい利晶の杜」

2015年にオープンした「さかい利晶の杜」は堺が生んだ茶の湯の大成者「千利休」と、日本近代文学を切り拓いた歌人「与謝野晶子」の生涯や人物像などを通じて、堺の歴史・文化を楽しんでくることができました。(企画 奥田・庄司・k.山川)

■日時：令和7年5月27日(火)
JR 芦屋駅9時50分集合。JR 新今宮駅から南海本線に乗換えて堺駅まで。「さかい利晶の杜」へ徒歩10分またはタクシー

■内容

「さかい利晶の杜」に11時30分に集まり、隣接する「梅の花」でまず昼食。和風の建物にインテリア、和庭園、器を愛で、季節を感じるメニュー、予約していた「彩ランチ」をゆっくり頂く。

11:30~13時

いよいよ見学タイム

- ① 館内の見学1階2階(各自見学)。会館の外側にある千利休屋敷跡も見学可能。
- ② さかい待庵ツアー(靴下の着用) 見学の人数制限で8名と6名の2回に分ける
- ③ 15:00~立礼呈茶(りゅうれいていちゃ) 全員そろって
- ④ 15:30 現地解散



*茶室の見学(予約)

さかい待庵：千利休作として、唯一現存する茶室(京都府大山崎の)妙喜庵。その創建当時の姿を堺のここで復元し、北野大茶湯の利休四畳半茶室を復元した無一庵と共に見学。二畳敷、四畳半敷の茶室に入り、案内人の説明を聞きながら、床や壁、天井、窓、躰口、茶道口等その空間を体験した。

*千利休茶の湯館見学

「千利休と堺のまち」「千利休と茶の湯」「千利休と



その後」の3コーナーからなるミュージアム

- 中近世の堺のまちは、貿易・商業都市として栄えた。それまでもヤマト王権の外港になっていた大阪～堺の湾岸エリアは、海外からの使者が訪れるようになったことで、仁徳天皇陵のような巨大古墳を海から見るところに造り、日本の国力を海外に誇示したと考えられる。
- 日明貿易の開始以降、貿易船などが次々来航、南蛮貿易、交易で栄え、財を成した豪商が多数出現。戦国時代にあって大切な財産を外敵から守るためにまちを取り囲むように、環濠^{かんごう}を掘り、自治による環濠都市^{かんごうとし}として独自に発展を遂げる。
- 商家・魚家^{いしや}に生まれたとされる千利休。侘茶^{わびぢや}を大成させ、堺では和菓子文化も花開く。



* 与謝野晶子記念館の見学

《みだれ髪》にはじまる多くの詩歌集を出版し、《源氏物語》の現代語訳や社会問題・教育問題にかかわる評論活動も行い、明治大正昭和と激動の時代、常に新しい世界に挑戦し表現し続けた晶子の姿を紹介する文学館。

• 明治時代の堺、羊羹で有名な和菓子商「駿河屋」に生まれた与謝野晶子。生家は2階が西洋づくりで大きな時計のある和洋折衷の建物。再現した展示で晶子の少女時代を紹介している。竹久夢二が描いた少女時代の晶子のイラスト

• 与謝野鉄幹（寛）と34年間共にし。晶子は12人の子どもの母となる。寛とは、師弟・同志・夫婦であって、互いに終生変わらない愛情と尊敬・信頼の絆で結ばれていた。その人生の軌跡の展示。国内だけでなく、欧州にも二人で長期旅行し、旅行中に生まれた子どもには、感銘を受けた芸術家ロダンの名前からアーギュストと名付けていた。

• 晶子の装丁に凝った数々の本の展示。造本に凝った色彩豊かな芸術的で美術的に高い価値の本を造っていた。それは夫寛の「本は後世に残るものでなければならない」という考え方によるものだった。

* 企画展 堺に生きた山崎豊子のまなざしー愛用品の数々ーの見学

• 大正時代、大阪船場の昆布商の老舗に生まれ、現大阪市立南小学校、現相愛中高、現京都女子大を卒業ご毎日新聞社に入社、記者生活のかたわら小説を書き始める。のちに作家井上靖の下で働く。作家として独立後、生涯すんでいたのが堺市浜寺。



見学の最後に

りゅうれいでいちゃ
*立礼呈茶（予約）

・表千家・裏千家・武者小路千家（この日は裏千家）のお手前により、茶席で使われている道具や床の飾りつけ（床・軸・花入れ）「拝見」、椅子席で抹茶と季節のお菓子を味わい、ホッと一息。その後解散。

■帰り道

もと来た南海堺駅から帰宅したり、徒歩3分の阪堺線の宿院駅から路面電車（通称ちんちん電車）で38分天王寺駅まで行ってJRや地下鉄で帰宅したり楽しみました。



- ・和菓子店本家小嶋（利休の時代創業）で、名物「芥子餅」を買い求める。
- ・路面電車に乗って住吉大社や天下茶屋など途中の景色や文化を見聞。

記： 山川恵子